



口腔ケアに対する認識の高まりの中で、意外に対応が難しい口腔乾燥を取り上げてきました。今回はその3として「口腔保湿剤」について、引き続きケアマネージャーとして在宅口腔介護に豊富な経験をお持ちの齊藤美香先生（歯科衛生士／旭川市DHケアプラン主宰）が解説します。

……………ドライマウス（口腔乾燥症）についてーその3……………

健康な口腔内は湿潤しています。しかし介護が必要な方にありがちな「投薬による副作用」、「禁食による非経口摂取での口腔機能低下」などの原因で唾液の分泌量が減少し、口腔が乾燥状態になることがあります。これがドライマウス（口腔乾燥症）です。

このドライマウス（口腔乾燥症）への対症療法のひとつに、口腔保湿剤（口腔化粧品類）の使用があります。

この口腔保湿剤は種類も多く、今回は（口腔ケアの対象となる）ドライマウス（口腔乾燥症）に対しての様々な応用について、具体的にご説明します。

口腔保湿剤を必要としている方（症状）

口腔保湿剤は以下①～③のようなケースでの使用が効果的です。この状態をそのままにすると、唾液による自浄作用の低下、剥離上皮の蓄積、舌苔の沈着などにより、口腔内が常に汚染しやすい状況となってしまいます。

- ①口腔機能の低下による唾液分泌量減少
- ②意識障害等による常時開口状態
- ③肺炎や極度の脱水等で乾燥状態

口腔保湿剤はこんな方に・・・！！

- ★口腔に乾燥感のある方どなたでも
- ★経口摂取（口から食べる）をしていない方（禁食）
- ★開口状態の方
- ★発熱・脱水状態の方・・・
- など

そして口腔乾燥の改善は、まず保湿して、そして痰分泌物等を除去・・・そしてまた保湿と、繰り返しの対応がポイントです。

【口腔保湿剤の使い分け】

口腔保湿剤には色々なタイプがあり、使い方を誤ると症状が改善しない場合があります。一般的に販売されている口腔保湿剤には、ペースト、ジェル、液状の3タイプがあり、これらの使い分けについて下表にまとめました。

保湿剤のタイプ	特長と使用上の注意	適応できる症状や使い方
ペースト	・定められた適量を調整しやすい。	・乾燥の状態が強く、帯状の痰の付着が顕著な場合など。 ・乾燥部に停滞し易いので、塗布後は暫く放置し、強固に付着した痰を柔らかくして除去する。
ジェル	・少量でよく拡がる。 ・量が多過ぎると咽頭に貯留しやすく誤嚥の危険がある。	・頬粘膜や舌に乾燥した痰がからみついている場合など。 ・スポンジブラシ等になじみやすいので、口腔内全体にまんべんなく塗布しながら、からみついた痰を除去する。
液状	・ガーゼ等に含ませ清拭する。 ・誤嚥の傾向のある方には不向きである。	・オブラート状の痰の除去など。 ・口腔乾燥の度合いによって量を調節しながら使用する。 ・強い乾燥状態への使用には適していない。

口腔保湿剤は、口腔乾燥の日々の状態によって上記のタイプを上手く使い分けると、早く改善する傾向にあります。

また、含まれている成分によっても効能が若干異なるので、歯科専門職とうまく連携し、その時々に必要な対応を行いましょう。

口腔乾燥は長期に渡っての対応が必要です。口腔ケアのプランニングを確立し改善を図りましょう。

